

大きな古時計、よみがえれ

川崎市生活文化会館(川崎市高津区溝口 愛称:てくのかわさき)に、昭和 20 年代(約 60 年前)製造の振り子式の大時計があります。「今はもう動かない」この古時計を、もう一度新しい時計としてよみがえらせようというプロジェクトが、かわさきマイスター有志の協力で進められています。

マイスターへの呼びかけ

きっかけは平成 22 年 4 月、この時計の修復を依頼された時計技能士の飯嶋義弘さん(P122 参照)が、「せっかくだから、それぞれのプロの技を結集し、新しい時計に生まれ変わらせよう」と、かわさきマイスターの仲間呼びかけたことに始まります。早速チームが結成され、「ものづくりの匠プロジェクト」が発足しました。

月に 1 回、定例会が開かれ、新たな時計のデザイン、設計、製作について話し合いが持たれました。さまざまな意見が出されましたが、時計を多摩川に見立てて、時計の振り子の寸銅を遡上する鮎のデザインにしようという案で、現在まとまっています。しかし細部については、今後のアイデア提案、検討、試行錯誤によっては、まだまだ変更があるかもしれません。



マイスターの技能・技術を
集結します。

プロの知恵と技を結集

メンバーは、プレス順送金型設計製作の大橋明夫さん(P30 参照)、精密板金の岡部勝夫さん(P62 参照)、建築板金の中村量貢さん(P10 参照)、試作多能工の備前幸雄さん(P26 参照)、金属ヘラ絞りの鍵屋清作さん(P42 参照)、神社寺院銅板屋根工事の関戸秀美さん(P54 参照)、広告看板製作の浅水屋甫さん(P86 参照)、印刷技能士の流石栄基さん(P94 参照)、生産システム(加工・組立)の設計・製作の平賀正明さん(P142 参照)、デザイン彫金士の久保田宗孝さん(P154 参照)、食品サンプルの田中司好さん(P158 参照)、機械設計・製作の伊藤直義さん(P170 参照)、パイプ曲げ加工の鈴木忠夫さん(P174 参照)、それに平成 23 年度のマイスターに認定された家具技能士の昼川捷太郎さん(P194 参照)も加わりました。呼びかけ人の飯嶋さんを入れると、現在 15 名です。ものづくりのプロ中のプロが、それぞれの知識と経験を持ち寄り、ひとつの目標に向かって協力し活動しています。



かわさきマイスター 「ものづくりの匠プロジェクト」進行中

川崎を象徴する記念品を製作

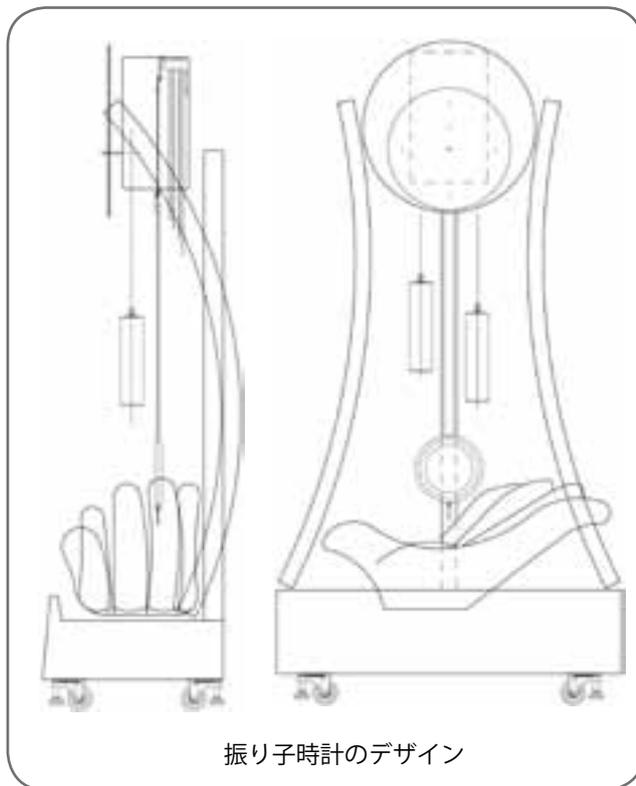
このプロジェクトのリーダーは、大橋明夫さん。大橋さんは有志4名と共に、この時計修復以外にも、2つの記念品、「市長贈呈菊皿」と「川崎市・瀋陽市友好都市提携30周年事業記念品」を製作しました。有志4名とは、中村量貢さん、鍵屋清作さん、平賀正明さん、久保田宗孝さん。

その一つ「市長贈呈菊皿」は、「ものづくりの匠プロジェクト」発足記念として、また卓越したマイスターの匠の技を披露するために贈呈したものです。

また「川崎市・瀋陽市友好都市提携30周年事業記念品」とは、川崎市長をはじめとする川崎市代表団が平成23年8月下旬に瀋陽市を訪問する際の、瀋陽市長に贈呈する記念品を、ものづくり都市川崎を象徴する記念品として作製したものです。

おもしろい物を作ってみせる

現在進行している時計修復は、全体的なデザインを流石さんと久保田さんが、設計を伊藤さんが担当しています。振り子の寸銅の鮎は、食品サンプルの田中さんがモデルを作製。寸銅巻き上げ装置の仕組みは平賀さんが担当、振り子のサンプルは大橋さんと平賀さんが製作します。時計中央に置かれ台座となる、かわさきマイスターのシンボルマークである手のオブジェは大橋さんが製作、その下の木工家具仕上げは木工家具仕上げは昼川さんが担当予定です。文字板は鍵屋さんがへら絞り加工を行い、浅水屋さんが文字を記載します。それぞれ専門の分担作業の、全体を統率するのが、リーダーの大橋さんの役目です。かわさきマイスターのプライドにかけて、おもしろい物



を作ってみせる、とやる気満々です。いったいどんな時計ができあがるか、今から楽しみです。